

覇道は我にあり



ポートレース住之江のGI「第49回高松宮記念特別競走」は、9月2日から6日間の日程で開催される。強豪ひしめく特別戦だが、同タイトルに初出場する選手の中にも楽しみな素材がいる。GI初優勝を目指すレーサーを3回連載で紹介する。初回は末永祐輝。



末永 祐輝(33)
山口

末永は、デビュー14年目にして悲願のA1昇格を果たした苦勞人だ。初優勝は2010年9月の下関。3コースから豪快にまくった。そこから11年10月の住之江まで4優出4V。優出すれば優勝という状態が続いた。しかも1号艇は1度もなく3~5コースでのV。穴党を歓喜させた。

▶▶ 悲願のA1昇格を決めた末永。GIでも持ち味を発揮するか

「あの頃はエンジンも良く出ていたし、レーススタイルもダッシュ中心。自信を持ってレースに行っていましたね」。しかし、12年デビュー14年目でA1昇格の苦勞人

師匠・今村さんへ吉報届ける

4月のプロペラ制度変更によって勢いは止まった。「持ちペラの時ほど伸びの差がなくなってしまう。持ちペラの時はどこに行っても出ていましたからね」師匠は昨年引退した今村豊さん。地道に技術を磨き、伸び中心のエンジン出しの精度を上げていった。今年2月の徳山・中国地区選手権では、複勝率25%のエンジンを立て直して予選を突破した。「悪いエンジンか

ら、いい足を引き出せた。エンジン出しに関しては自信になりました。調整の対応は最近もできていると思う」。8月の下関・お盆シリーズでは、白井英治ら強豪を相手に優勝戦1号艇(結果は2着)を手にした。「今村さんが引退するまで、一緒に記念レースに行くことが夢でした。地区選では一緒に走りましたけど、純粋な記念レースでは走ることができなかった。それが悔やまれますね」。地区選や新鋭王座、追加以外でのGI参戦は今回が初。今村さんが苦戦した住之江で活躍し、その師匠に吉報を届ける。